

## 30代で落ちぶれないための 「スキル武装」

「彼らの場合、社内での激しい競争に勝つため資格取得は当然と捉えており、しかも資格は「スキルとキャリアの説明手段に過ぎない」と考えていた」

自社の社員と大企業戦士との資格やスキル修得に対する意識の差を痛感した平野氏は、毎日終電で帰宅するような多忙な中でも、30分程度の通勤時間や休憩時間を惜しんで参考書や問題集を次々と

十分に仕事は回ってきた。それでも資格取得の必要性を感じたのは、仕事で出会った大企業の技術者と交流する中、彼らのスキル向上に注ぐ努力を目の当たりにしたからだだった。

時代はバブル前夜、資格などなくとも十分に仕事は回ってきた。それでも資格取得の必要性を感じたのは、仕事で出会った大企業の技術者と交流する中、彼らのスキル向上に注ぐ努力を目の当たりにしたからだだった。

「資格はスキル証明ではなく、保有スキルの説明手段に過ぎない」

そう言い切るのは、中堅ソフトハウス在職中の18年間で10を越える資格を取得し、現在は独立してビジネススクールのヒューマン・アカデミーでIT技術の契約講師を務めている平野正喜氏だ。

84年に入社してシステム構築部門に配属された平野氏は、当時30人規模のチームの末端社員に過ぎなかった。いち早くプロジェクトを任せられる立場になるには、同期にはないスキルを獲得する必要があると痛感。また上司から、能力を伸ばす上で「資格取得と社外との交流は必須」とのアドバイスを受け、自身のテーマとしてこの2つに取り組み始めた。

### CASE.3

10以上の資格を持つ  
資格取得の達人は、  
実務への活かし方が  
大事と力説する

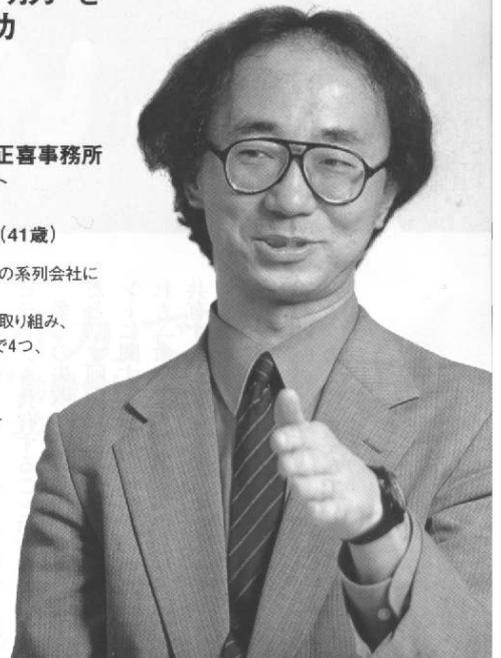
## 「資格力」で勝負!

資格で得た“説明力”を  
武器に独立成功

RunDog.org 平野正喜事務所  
IT講師/コンサルタント

平野正喜氏 (41歳)

大学卒業後、某石油会社の系列会社に技術者として就職。  
入社直後から資格取得に取り組み、IT系資格を中心に、20代で4つ、30代で8つの資格を取得。  
40歳で独立し、  
現在ヒューマン・アカデミー講師として活躍中



### 資格取得で即キャリアアップ という考えは大きな間違い

一方、資格の勉強が実務に活かせるかどうかの試練も味わった。28歳でプロジェクトマネージャに任命されたときあるプロジェクトをNECと競合して行うことになったときのことだ。

「自分の提供できる価値を顧客に説明するとき、資格の勉強で身につけた『理論』が大いに役立った」と言うように、技術者が陥りがちな「経験値」に頼った技術説明ではなく、的確な説得力で顧客に対応。この能力は、自分より年上のメ

誑破。社内で勉強するとき、スピニアウトを目論んでいるという誤解を避けるため、上司や先輩を巻き込んで勉強に取り組んだ。こうして、28歳までの6年間で情報処理技術者試験2種、1種、特種を立て続けに取得することに成功する。

ンパーや他社からの出向者をまとめる上でも役立ち、プロジェクト終了時には顧客からNEC以上の高評価を得た。

こうした経験から、資格がキャリアアップをもたらす免罪符だと勘違いしがちな若手には、「資格取得は有効な武器になるが、あくまで実務の補正に過ぎない」と繰り返し説いたという。

30代で課長待遇となり、新設の研究開発部門で技術評価、技術営業などを任された平野氏はしかし、部下に模範を示す意味も含め、その後もシマンテック認定スペシャリスト、Microsoft認定システムエンジニア(MCSE)などを取得

そうして40歳を迎えた昨年、「社会に役立つ人間になる」道を選ぶべく独立ソフトウェア業界の変革期を覗み、オリジナルの技法を持つエンジニアを育てるため、自身の資格取得の経験をもとに今後の技術者育成の方向性を模索している。



2003.5 type / 32

2003年4月15日(火)発売のtype5月号に掲載の

### 【総力特集】

同じ環境に留まっていたは生き残れない  
30歳で落ちぶれないための「スキル武装」  
より